# 【重要書類】 かならずお読みください。

# 除雪機　取扱説明書不備のお詫びと改訂のお知らせ

日頃は弊社製品をご愛用頂き、厚く御礼申し上げます。

この度、弊社が販売いたしました一部の除雪機におきまして取扱説明書の「保管・格納」部分の説明に不備がある事が判明致しました。

不備の取扱説明書通りの保管・格納を行うとガソリンが燃料コックから飛散する場合がございます。

つきましては、除雪機を安心して保管・格納いただくため、同封致しました正しい保管・格納方法に従い作業をお願い申し上げます。

お客様には多大なご迷惑をお掛けしますことを心よりお詫び申し上げますとともに、今後も製品、取扱説明書の品質向上に、より一層の努力をしてまいる所存ですので、何卒ご理解とご協力をたまわりますようお願い申し上げます。

平成17年5月25日

ヤマハ発動機株式会社

記

【対象商品】

1999年(平成11年)6月販売分から2005年(平成17年)6月販売分までの以下の商品。

1) YT660系(YT660E/YT660ES/YT660ED/YT660EDJ)
2) YT970系(YT970E/YT970ES/YT970ED)
3) YT1070系(YT1070ED)
4) YT1080系(YT1080E/YT1080ED/YT1080EX)
5) YT1290系(YT1290E/YT1290EX/YT1290EXR)
6) YS870系(YS870/YS870J)
7) YS1070系(YS1070)
8) YS1390系(YS1390A/YS1390AR)

【お願い】

該当商品の取扱説明書(「保管・格納」 P11-1、P11-2)の説明に不備があります。

同封致しました、正規の「保管・格納」書に従い作業していただくとともに、これをお手持ちの取扱説明書とともに大切に保管をお願い申し上げます。

専用お客様相談窓口

TEL:0537-21-0953 (ヤマハ発動機株式会社特機事業部)

受付時間　午前9時～正午、午後1時～午後5時(土日、祝日は除く)

ホームページ

http://www.yamaha-motor.co.jp/

## 保管・格納

保管・格納時の点検整備は、お買い上げの販売店にご相談ください。
ご自身で実施する場合は、ガソリン取り扱いに注意して下記手順で実施してください。

**▲危 険**

**ガソリンは高い引火性と爆発力がありますので、次の事項を必ずお守りください。**
- **給油中は、タバコを吸わないでください。また、他の火種になるようなものを近づけないでください。**
- **給油中は、給油ノズルを給油口に当てるなどして静電気が発生しないように注意してください。**

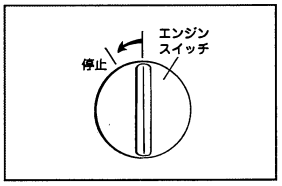
**●保管**

使用後、または定期運転後次回の使用が3ヶ月以降になる場合は、1～14の作業を行なって保管し、次に使用する時に備えます。

**▲注 意**

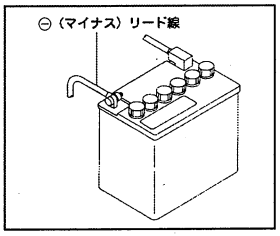
- **燃料が変質してエンジンの始動が困難になる場合がありますので、燃料は抜いてください。**

1. エンジンを停止します。




2. エンジンスイッチを抜きます。

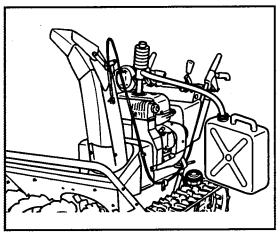
3. バッテリの ⊖（マイナス）リード線を外します。
3ヶ月に1度は比重を点検します。




**要 点**

- 点検方法、補充電の仕方は販売店にご相談ください。

4. 燃料タンクキャップを外して燃料タンク内の燃料（無鉛ガソリン）を抜きます。



**▲注 意**

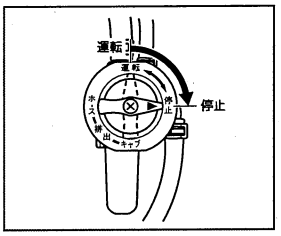
- **こぼれた燃料はただちに布きれ等で完全にふきとってください。**



**要 点**

- 排出する燃料（無鉛ガソリン）を受け取る容器を用意してください。
- 燃料タンクキャップは確実に締め付けてください。

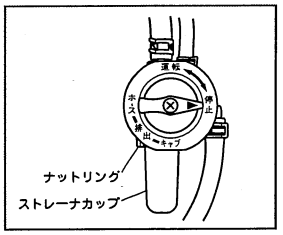
5. 燃料コックレバーを“運転”から“停止”にします。

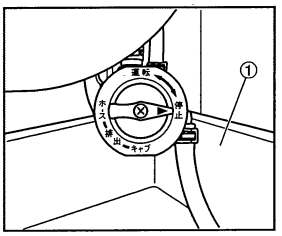



6. 排出する燃料を受け取る容器①を用意し、燃料コックのナットリングを弛めてストレーナーカップを外します。

**要 点**

ナットリングが緩みにくい場合は、プライヤー等の工具で緩めてください。

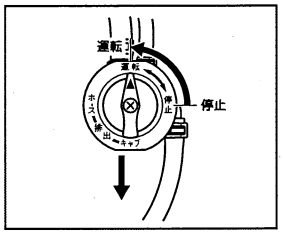





## 保管・格納（つづき）

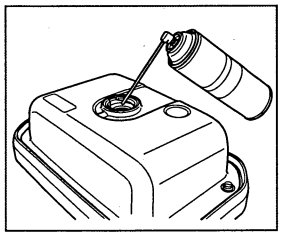
7. 燃料コックレバーを“停止”から“運転”にし燃料タンク内の燃料（無鉛ガソリン）を抜きます。



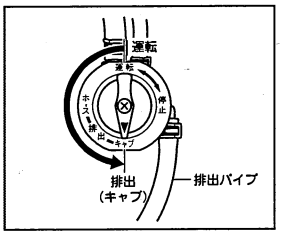

**▲注 意**

- **こぼれたガソリンはただちに布きれ等で完全にふきとってください。**

8. 防錆スプレーで燃料タンク内を防錆処理します。



9. 燃料コックレバーを“運転”から排出（キャブ）にし、キャブレタ内の燃料を排出パイプより抜きます。




**▲注 意**

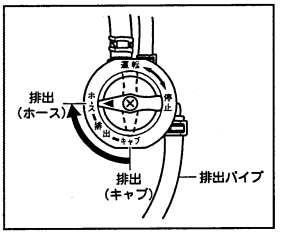
- **こぼれたガソリンはただちに布きれ等で完全にふきとってください。**

**要 点**

- 排出する燃料（無鉛ガソリン）を受け取る容器を用意してください。



10. 燃料コックレバーを排出（キャブ）から排出（ホース）にし、ホース内の燃料を排出パイプより抜きます。




**▲注 意**

- **こぼれたガソリンはただちに布きれ等で完全にふきとってください。**

**要 点**

- 排出する燃料（無鉛ガソリン）を受け取る容器を用意してください。

11. ストレーナーカップ、ナットリングを取り付けます。
12. 燃料コックレバーが排出（ホース）になっていることを確認します。
13. ゆるみがあれば各ボルト・ナットを増し締めします。
14. 室内で湿気が少なく換気のよい場所に保管します。

YAMAHA

# 小型除雪機

## 取扱説明書

# YT1080E
# YT1290E

ご使用前に、かならず取扱説明書・本体ラベルをお読みになり、内容を理解してからお使いください。

332085

7RX-28199-00

# おねがい

ヤマハ商品をお買上げいただき、まことにありがとうございます。
本書は、商品の安全性に関する情報および商品の正しい取り扱い方法と簡単な点検・調整について記載してあります。
万一、取り扱いを誤ると重大な事故や故障の原因となります。
あなた自身の安全と環境や住民の方との調和の為に、また商品の性能を十分に発揮させるために、商品の取り扱いを十分ご存じの方も、この商品独自の装備、取り扱いがありますので、ご使用される前に必ず本書を最後までお読みいただき、またご使用時には携帯し、安全に商品をご使用くださいますようお願い申し上げます。
＊本書では正しい取り扱いおよび点検・調整に関する必要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠ 安全に係る注意情報を意味しています。

**⚠危 険** 取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性がある場合を示してあります。

**⚠警 告** 取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。

**⚠注 意** 取り扱いを誤った場合、障害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。

**要 点** 正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示してあります。

＊仕様変更などにより、本書の写真や内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。
＊本書は大切に保管し、本機の転売や譲渡等をされる場合は必ず添付してください。
＊将来、廃棄される場合及びバッテリ、廃油等の廃棄処理をされるときは、環境保護のためお買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。
＊ヤマハ商品には保証書をおつけしています。
保証書はよくお読みいただき裏面の販売店・捺印をご確認のうえ、大切に保存してください。

ご不明な点や不具合なところがありましたら、お早目にお買いあげのヤマハ販売店にご相談又はお申しつけください。
ヤマハ販売店では、お客様の良きアドバイザーとしてご来店をお待ち申し上げております。

# 目次


⚠安全にお使いいただくために.....P1
- 運転前には.....P1
- 運転中には.....P2
- 保管のときは.....P4

⚠重要ラベル.....P5
- ⚠危険ラベル.....P5, 6
- ⚠警告ラベル.....P5
- ⚠注意ラベル.....P5, 6

各部の名称.....P7

始動する前に点検しましょう.....P8
- 燃料（ガソリン）の点検.....P8
- エンジンオイルの点検.....P9
- 変速機（H.S.T）オイルの点検.....P10

各部の取り扱い.....P11
- メインスイッチ.....P11
- 燃料コック.....P11
- ヒューズ.....P12
- スロットルレバー.....P12
- チョークレバー.....P12
- 変速レバー.....P13
- シャーボルト.....P13
- クラッチレバー.....P14
- シュータ方向調整スイッチ.....P15
- シュータデフレクタ調整レバー...P15
- オーガチルトレバー.....P15
- スキッド（そり）.....P16
- スクレーパ.....P16
- サイドクラッチレバー.....P16
- スノーバー（雪かき棒）.....P17
- 作業灯.....P17

正しい運転方法.....P19
- エンジンの始動.....P19
- 除雪作業をするとき.....P21
- 移動をするとき.....P23
- エンジンの停止.....P24

やさしい点検と整備.....P26
- 始業点検.....P26
- 定期点検.....P26
- 点検項目.....P27
- 点検・交換・調整.....P29
  - •エンジンオイルの交換.....P29
  - •変速機（H.S.T）オイルの補給.....P30
  - •ウォームケースオイルの交換.....P31
  - •ミッションオイルの交換.....P32
  - •スパークプラグの点検・清掃.....P33
  - •フューエルストレーナの清掃.....P34
  - •スキッド（そり）の調整.....P35
  - •シャーボルトの交換.....P35
  - •スクレーパの調整.....P36
  - •トラック（クローラ）の張りの点検・調整...P37
  - •バッテリ液量の点検.....P38
  - •ヒューズの交換.....P39
  - •各部の給油.....P39

長期格納.....P40

仕様諸元.....P41

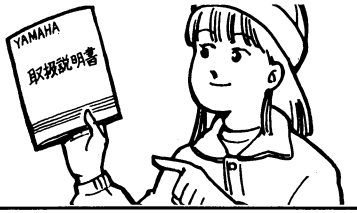
お客様ご相談窓口.....P43

索引（さくいん）.....巻末

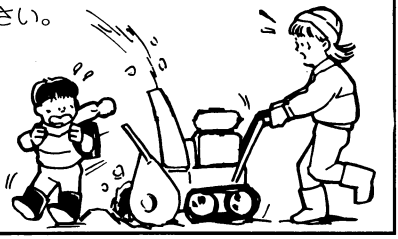
# ⚠安全にお使いいただくために

## ●運転前には

**1** ご使用前に必ず取扱説明書及び本機に貼付しているラベル類をお読みいただき、正しい操作方法をよくご理解ください。子供や操作方法を知らない人に操作させないでください。




**2** 除雪場所に人･幼児･子供及びペット等を入れないでください。また除雪前に木片･缶･ホース線材･ナワ及びその他の異物をすべて除去してください。



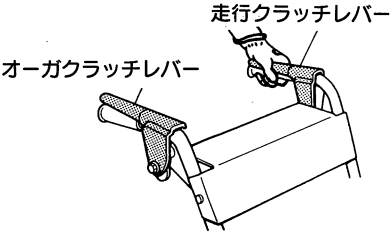
**3** 本機を取り扱うときはいつでもすべりにくいはきもの・防寒服･手袋を着用してください。

**4** 燃料の補給は屋外でエンジンが停止していることを確認してから行なってください。補給後はタンクキャップをしっかりしめてください。こぼれた燃料はふきとってください。

火気厳禁

**5** 使用前にオーガ・ブロアハウジング及びシュータに異物がないか確認してください。

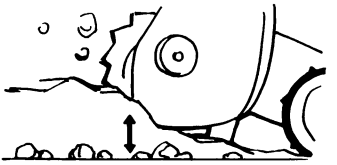
**6** エンジン始動後、オーガ、走行クラッチレバーを離したときにオーガの回転と除雪機の走行が停止するか確認してください。



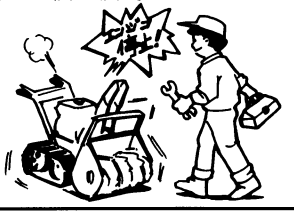
## ●運転中には

**1** 回転している部分の近くをのぞいたり手や足を入れないでください。

**2** 砂利のある除雪場所を除雪するときは、スキッドはいっぱいに下げて砂利を飛ばさないように注意して運転してください。

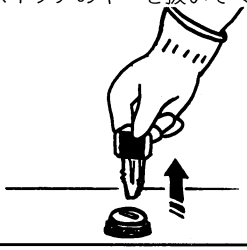


**3** 除雪部に異物が当ったり巻きついた時はすぐにエンジンを停止し異物を取り除いてください。除雪機に損傷がないか点検し、ある場合は完全に修理した後、使用してください。



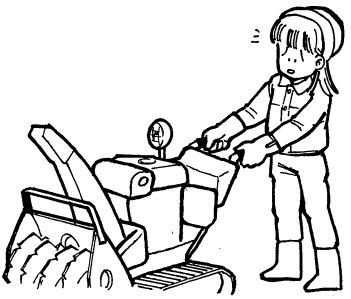

**4** 除雪機から異常な振動・音・においがしはじめた時はエンジンを停止し原因を調べてください。

**5** 除雪機からはなれる時、除雪部の障害物を除去する時、修理・点検・調整を行なう場合等はエンジンを停止しメインスイッチのキーを抜いてください。

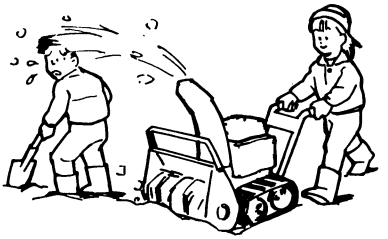


**6** 除雪機を移動させる以外は、エンジンを屋内で始動させないでください。
移動の時も排気ガスは有害なので扉を開け十分な換気を行なってください。

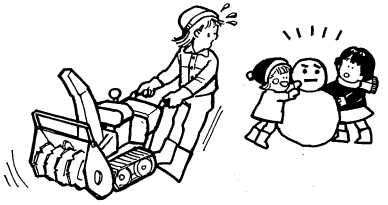
**7** ガード及びカバー等を外した状態でエンジンを始動させないでください。



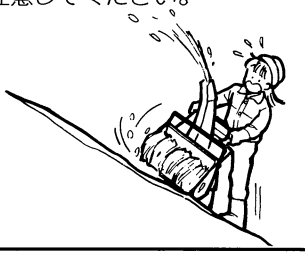
**8** 除雪中には窓・人・建物・自動車等に向けて投雪しないよう投雪方向を調整してください。



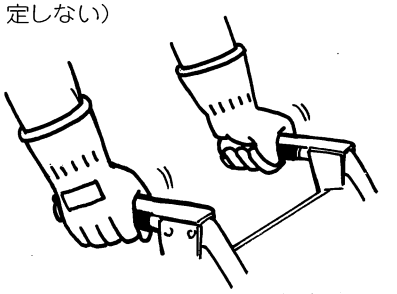
**9** 滑りやすい表面上では変速レバーを“作業時”位置にして高速で除雪機を運転してください。
後進する時は背後を確認し、足元に十分注意をして運転してください。



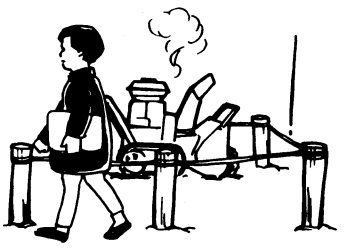
**10** 傾斜面を横切って除雪しないでください。
傾斜面で方向を変える場合には十分注意してください。



**11** ハンドルのレバーは必ず手で操作してください。(ひも等でレバーを固定しない)



**12** 運転後マフラ（排気管）が加熱しているので人が触れない場所に置いてください。

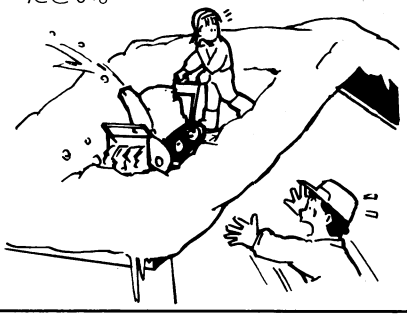


**13** シュータ、ブロア、オーガ等に詰まった雪は必ずエンジンを停止しメインスイッチのキーを抜いて付属のスノーバー（雪かき棒）を使って取り除いてください。素手では絶対に行なわないでください。

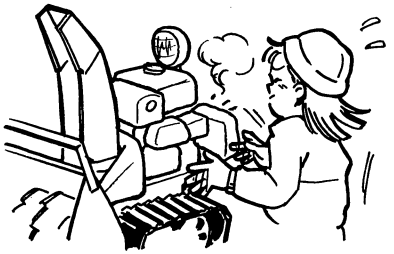
## ●保管のときは

**1** 使用前点検・定期点検を必ずしてください。

**14** 除雪機を屋根の上で使用しないでください。

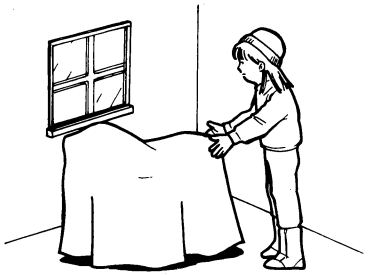


**2** 屋内に除雪機を保管する時は、エンジンを冷し除雪機についた雪を取り除いてください。



**15** 早朝、夜間等視界のよくない時に除雪する場合は作業灯を点灯し、かつ十分な照明のもとで行なってください。なお視界が不安定な場合は除雪機を使用しないでください。

**3** 除雪機の長期保管は、取扱説明書の作業内容に基づき保管してください。

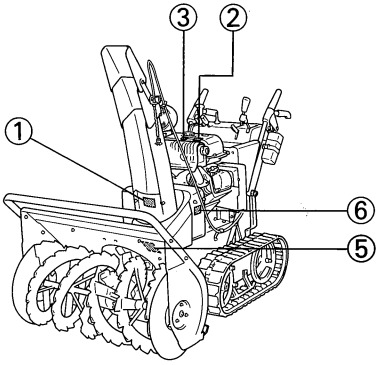


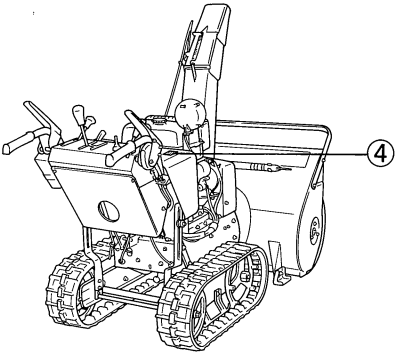
# ⚠重要ラベル

商品の安全な取り扱いのために、本体に貼付されている「ラベル」をお読みいただきラベルの指示に従ってください。

**要　点**

各重要ラベルは常に手入れを行い、破れたりはがれたりした場合は販売店にご相談して、直ちに新しいものと交換してください。




①

7MN-51782-00

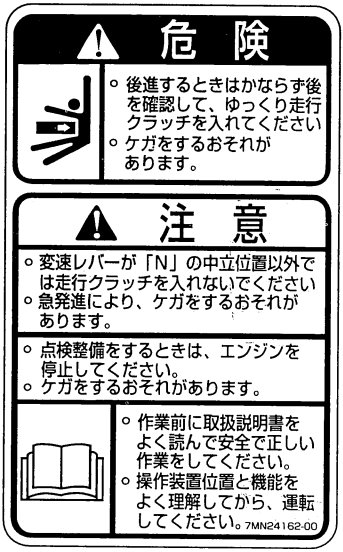
②

7MN-24156-00

③

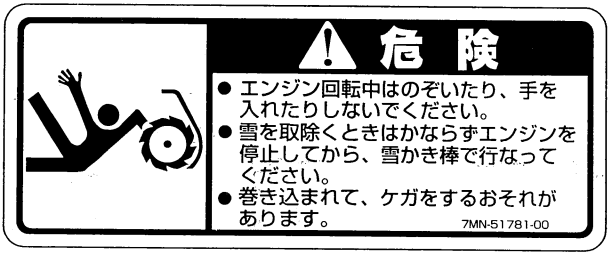
7MN-2415E-00

④



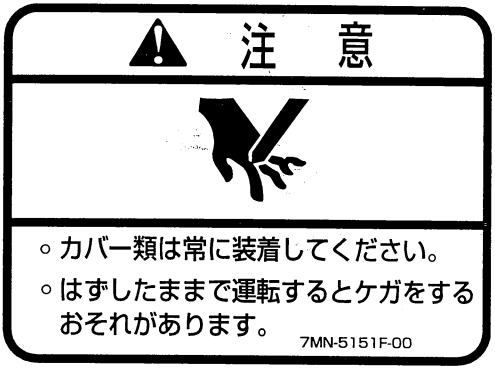

7MN-24162-00

⑤



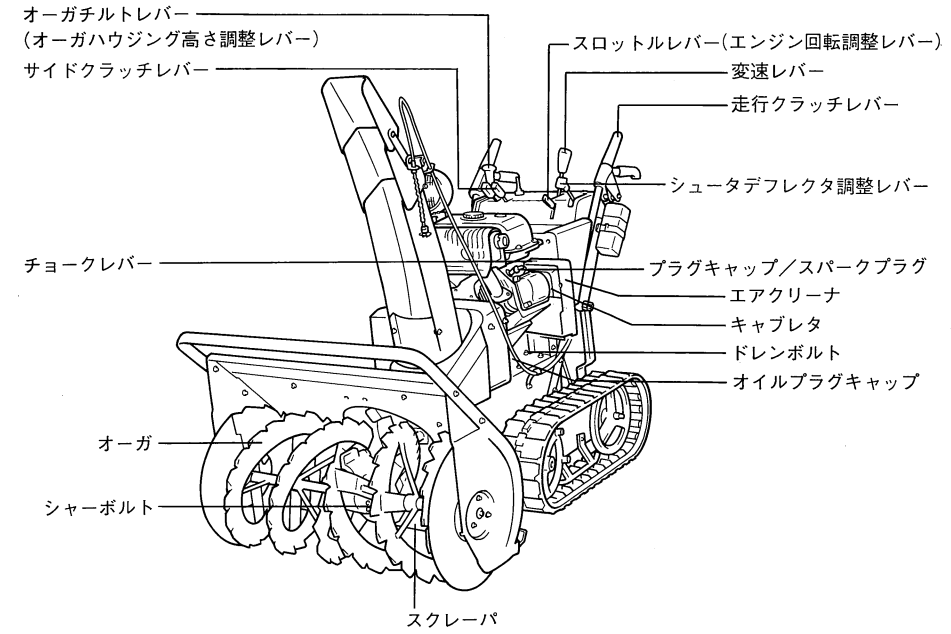

7MN-51781-00

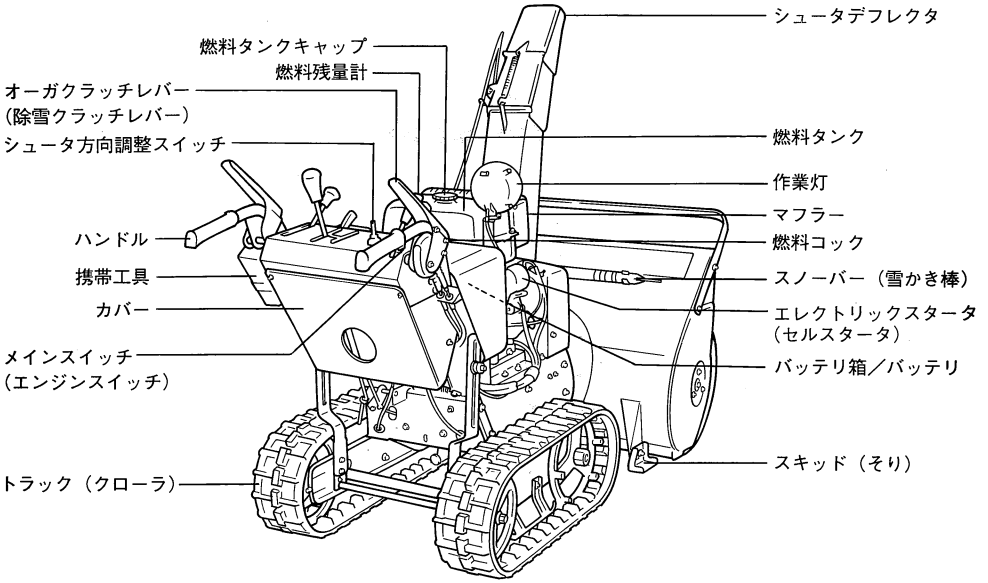
⑥




7MN-5151F-00

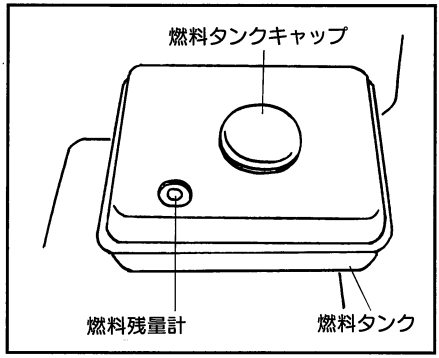
# 各部の名称


オーガチルトレバー
(オーガハウジング高さ調整レバー)
サイドクラッチレバー
スロットルレバー(エンジン回転調整レバー)
変速レバー
走行クラッチレバー
シュータデフレクタ調整レバー
チョークレバー
プラグキャップ／スパークプラグ
エアクリーナ
キャブレタ
ドレンボルト
オイルプラグキャップ
オーガ
シャーボルト
スクレーパ


シュータデフレクタ
燃料タンクキャップ
燃料残量計
オーガクラッチレバー
(除雪クラッチレバー)
シュータ方向調整スイッチ
燃料タンク
作業灯
マフラー
ハンドル
燃料コック
携帯工具
スノーバー（雪かき棒）
カバー
エレクトリックスタータ
(セルスタータ)
メインスイッチ
(エンジンスイッチ)
バッテリ箱／バッテリ
スキッド（そり）
トラック（クローラ）

# 始動する前に点検しましょう

## ●燃料（ガソリン）の点検




燃料（ガソリン）の量は燃料残量計もしくは燃料タンクキャップを外して点検します。
燃料は全部なくなる前に、できるだけ早目に補給してください。

| | |
|---|---|
| 使用燃料 | 自動車用無鉛ガソリン |
| 燃料タンク容量 | YT1080E　6.7ℓ |
| | YT1290E　6.7ℓ |

**⚠危 険**

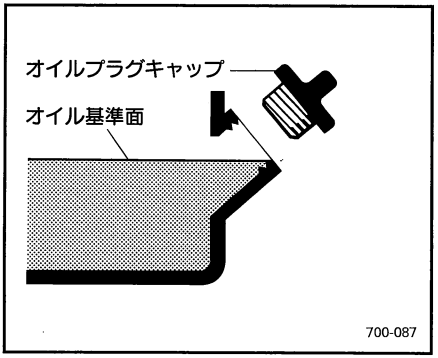
ガソリンは高い引火性と爆発力がありますので、次の事項を必ずお守りください。

- 給油は、換気の良い場所でエンジンを停止してから行なってください。
- 給油中は、タバコを吸わないでください。また、他の火種になるようなものを近づけないでください。
- 給油中は、給油ノズルを給油口に当てるなどして静電気が発生しないように注意して行なってください。
- ガソリンは規定量以上（燃料タンクの口元まで）給油しないでください。
- こぼれた時は、ただちに布きれ等で完全にふきとってください。
- 燃料タンクキャップは確実に締めてください。
- ガソリンを飲み込んだり、ガソリン蒸気を吸い込んだり、またはガソリンが目に入ったりした場合は、直ちに医者に診てもらってください。
- ガソリンが皮膚や衣類にこぼれた場合は石鹸と水で直ちに洗い、衣類は取り替えてください。

**⚠注 意**

ガソリンの補給時、燃料タンク内に水・雪・氷が入らないように注意してください。

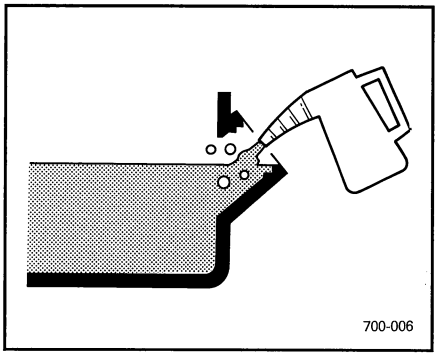
## ●エンジンオイルの点検




オイルプラグキャップを外しエンジンオイル量がオイル基準面まであるか点検します。

**要　点**

**エンジンオイル量の点検は、除雪機を水平にして行ないます。**



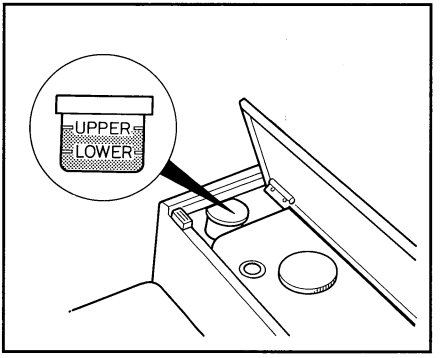

エンジンオイル量がオイル基準面より少ない場合は、ヤマハ4サイクルエンジンオイルを注入口の口元まで給油します。

使用オイル　ヤマハ4サイクルエンジンオイル
（API分類SE級エンジンオイル
SAE5W-30）

**要　点**

- **エンジンオイルの給油は、除雪機を水平にして行ないます。**
- **こぼれたエンジンオイルは必ずふきとってください。**

## ●変速機（H.S.T）オイルの点検

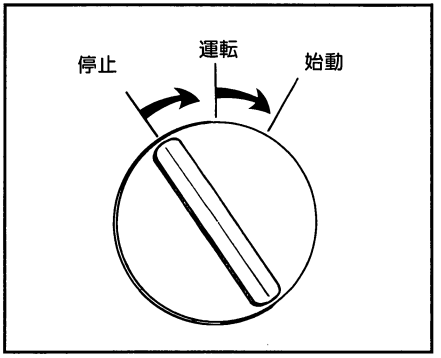



オイル量を点検します。
オイルがタンクのUPPER（上限）とLOWER（下限）の間にあるか点検します。

**要　点**

**オイル量の点検は、除雪機を水平にして行ないます。**

## ●メインスイッチ




点火、始動系統を制御します。

| | |
|---|---|
| 停　止 | エンジン停止<br>（キーが抜けます） |
| 運　転 | エンジン始動・運転 |
| 始　動 | エンジン始動<br>（セルスタータ） |

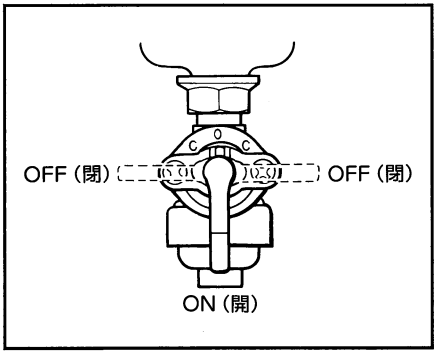
**⚠注　意**

- セルスタータを連続して5秒以上回転させないでください。消費電力が多いためバッテリ上がりの原因となります。
- 使用しない時は、メインスイッチを“停止”にしキーを抜いてください。

**要　点**

始動の位置でエンジンがかかったらメインスイッチを“運転”の位置に戻して下さい。

## ●燃料コック




燃料の流れを制御します。

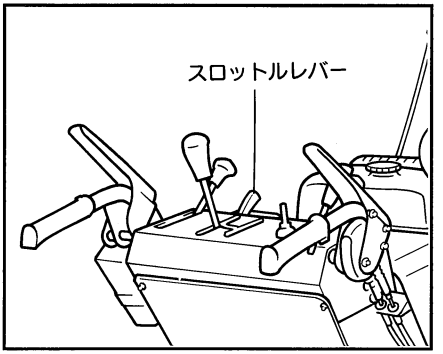
| | |
|---|---|
| 閉（OFF） | 燃料は流れません。<br>停止および保管時のレバー位置です。 |
| 開（ON） | 燃料は流れます。<br>始動および運転時のレバー位置です。 |

## ●ヒューズ

ヒューズはバッテリ箱内のバッテリの近くに装着されています。

容量　30A

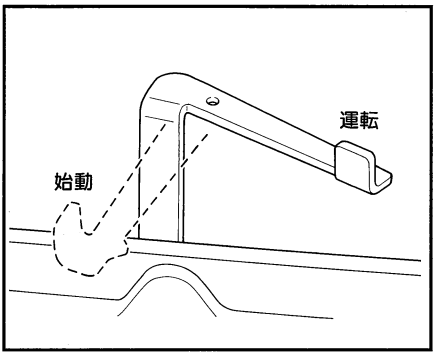
## ●スロットルレバー




エンジンの回転数を制御します。

始　動　　エンジン始動および除雪作業をする時のレバー位置です。

## ●チョークレバー

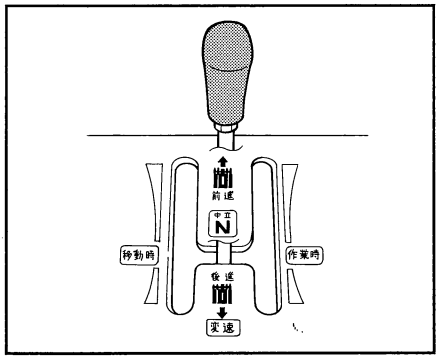



キャブレター通路の開閉を制御します。

始　動　　エンジンを始動させる時のレバー位置です。

運　転　　エンジンを運転する時のレバー位置です。

## ●変速レバー




走行速度を変更する時に操作します。

YT1080E

| | | |
|---|---|---|
| 前進 | 作業時 | 0～1.35km/h |
| | 移動時 | 0～3.49km/h |
| 後進 | 作業時 | 0～0.75km/h |
| | 移動時 | 0～1.8km/h |

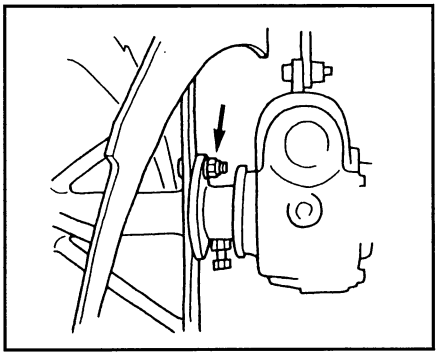
YT1290E

| | | |
|---|---|---|
| 前進 | 作業時 | 0～1.35km/h |
| | 移動時 | 0～3.49km/h |
| 後進 | 作業時 | 0～0.75km/h |
| | 移動時 | 0～1.8km/h |

**⚠注 意**

- 無段変速機を使用していますのでレバーは中立位置からゆっくり動かし速度調節してください。
- 除雪作業開始時は変速レバーをゆっくり操作し作業に適した速度を選んでください。

## ●シャーボルト



オーガに異物がかみ込んだり縁石等に接触した場合、オーガのシャーボルトが折損してオーガの回転を停止し、オーガを保護します。

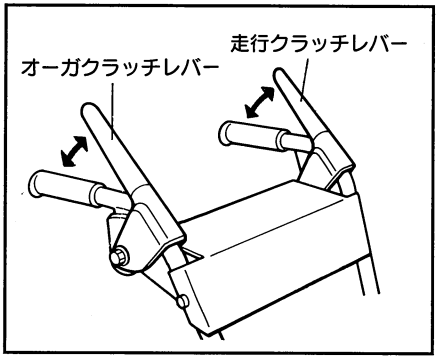
**要　点**

シャーボルトは純正部品をご使用ください。

**⚠危 険**

オーガ回転中はのぞいたり、手を入れたりしないでください。

## ●クラッチレバー




オーガクラッチレバー

| | |
|---|---|
| オーガクラッチレバーを握る | オーガ部が回転します。 |
| オーガクラッチレバーをはなす | オーガ部が停止します。 |

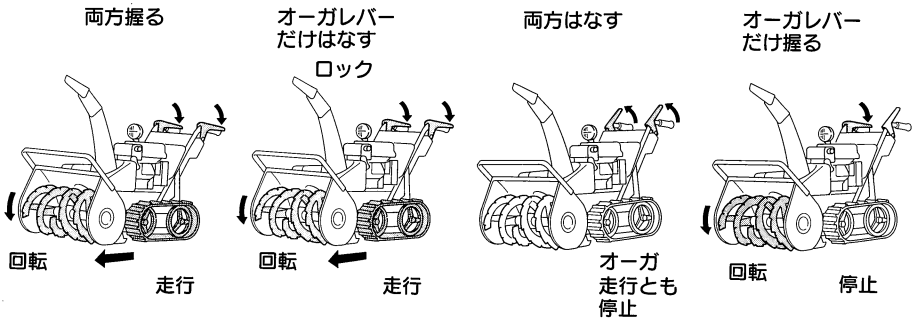
走行クラッチレバー

| | |
|---|---|
| 走行クラッチレバーを握る | 走行します。 |
| 走行クラッチレバーをはなす | 停止します。 |

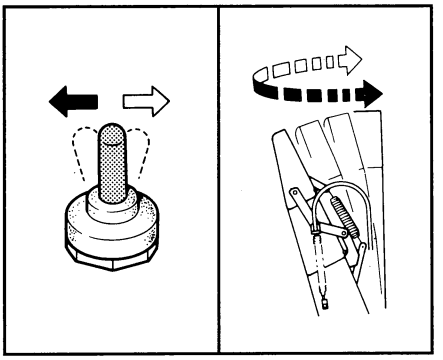
### オーガクラッチレバーと走行クラッチレバー

■操作のコツ■

除雪機を移動させる時は走行クラッチレバーを握ります。
走行クラッチレバーを握っている時は一度オーガクラッチレバーを握れば、固定されるためオーガクラッチレバーから手をはなしても走行および除雪ができます。



## ●シュータ方向調整スイッチ

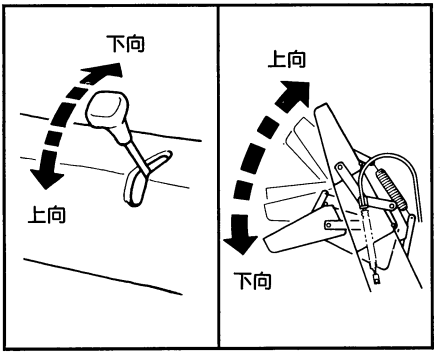


投雪方向を変える時に操作します。

スイッチを右にたおす　シュータは右回転します。

スイッチを左にたおす　シュータは左回転します。

## ●シュータデフレクタ調整レバー

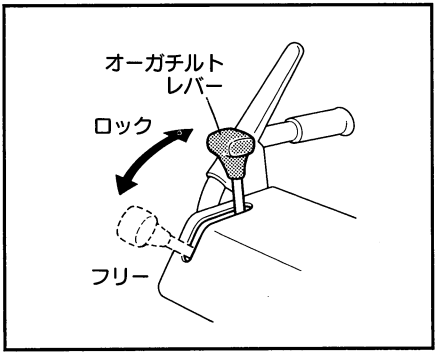



投雪角度を変える時に操作します。

上向　シュータデフレクタが上向きになり雪を遠くにとばします。

下向　シュータデフレクタが下向きになり雪を近くにとばします。

## ●オーガチルトレバー

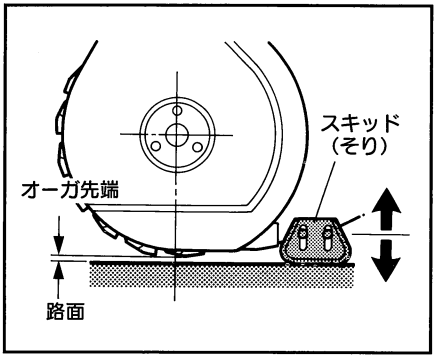



オーガの高さを変える時に操作します。

ロック　ハンドルを持ち、オーガと路面高さを選び、レバーで固定します。

フリー　ハンドルを上下すると路面とオーガのすきまを自由に変更できます。

## ●スキッド（そり）

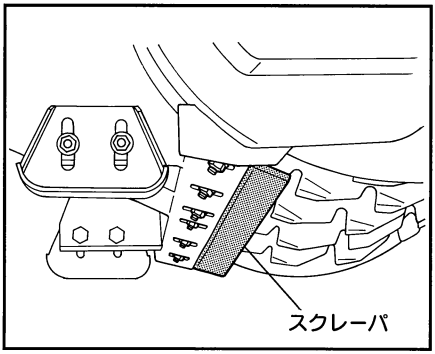



路面とオーガ先端とのすき間を路面の状態に合わせて調整することができます。

工場出荷時　オーガ先端と路面の
すき間が5mm

路面がコンクリート、アスファルト
……すき間を小さくする
路面が小石、ジャリ道
……すき間を大きくする

## ●スクレーパ

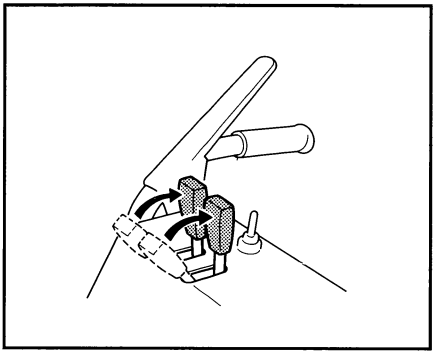



路面とスクレーパとのすき間を路面の状態に合わせて調整することができます。

工場出荷時　スクレーパ先端と路面の
すき間が5mm以上

路面がコンクリート、アスファルト
……すき間を小さくする
路面が小石、ジャリ道
……すき間を大きくする

## ●サイドクラッチレバー



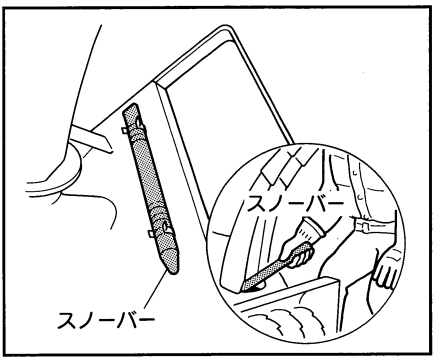
進行方向を変える時に操作します。

右側レバー　右に曲がる時使います。
左側レバー　左に曲がる時使います。

**⚠警 告**

**アユミ板の上を移動しているときは、サイドクラッチレバーを絶対に操作しないでください。アユミ板から本機が落ちる場合があります。また途中での走行停止は極力さけてください。**

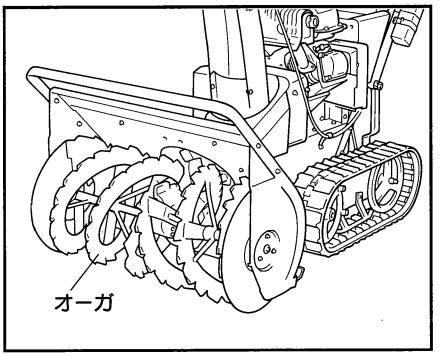
## ●スノーバー（雪かき棒）




シュータやブロアに詰まった雪を取り除く場合に使用します。

**⚠警 告**

- ブロア回転中は中をのぞいたり、手を入れたりしないでください。
- エンジンを停止し、メインスイッチのキーを抜いて手袋をはめてから雪を取り除いてください。

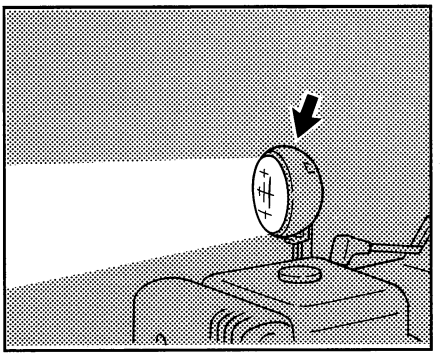



オーガに詰まった雪を取り除く場合に使用します。

**⚠危 険**

- オーガ回転中は中をのぞいたり、手を入れたりしないでください。
- エンジンを停止し、メインスイッチのキーを抜いて手袋をはめてから雪を取り除いてください。

## ●作業灯



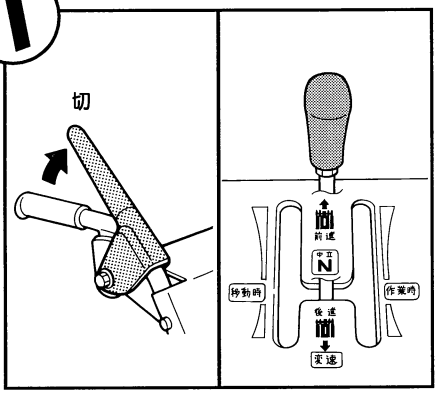
除雪作業や移動を行なう場合に使用します。

電球　　12V20W

# 正しい運転方法

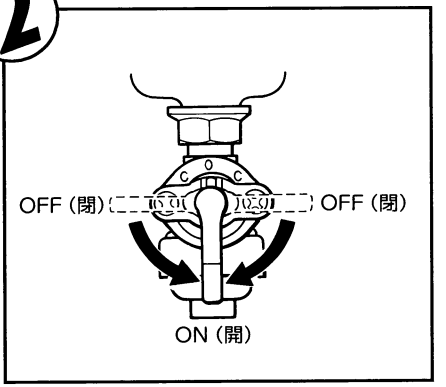
## エンジンの始動

### 1



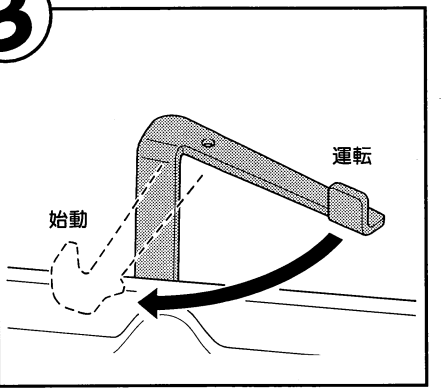

変速レバーを“中立”の位置にします。
オーガ、走行クラッチレバーが“切”の位置にします。

### 2




燃料の量を確認します。
燃料コックを“開”にします。

### 3

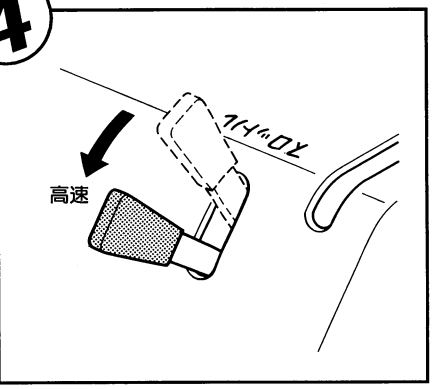



チョークレバーを“始動”にします。

**要　点**

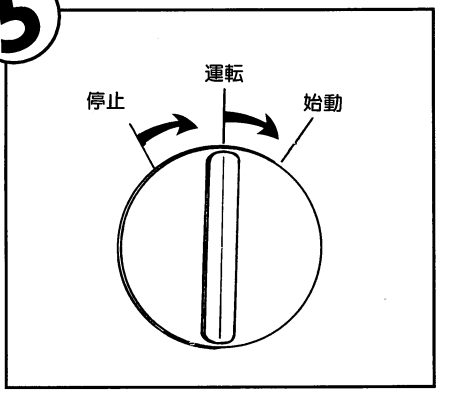
エンジンが暖まっている時は、チョークレバーを始動にする必要はありません。

### 4




スロットルレバーを“高速”にします。

## 5 エレクトリック始動の場合

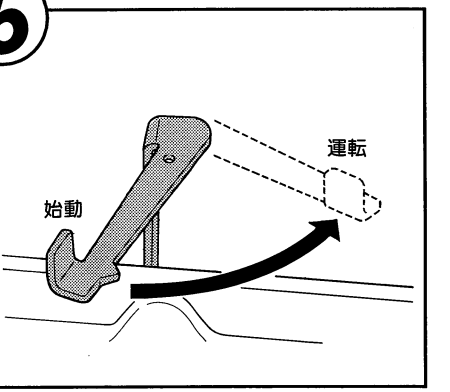



メインスイッチを始動の位置まで回しエンジンを始動します。

**要　点**

メインスイッチを回して5秒以内でエンジンがかからない時は、バッテリ回復のため10秒くらい休んでからまた回してください。

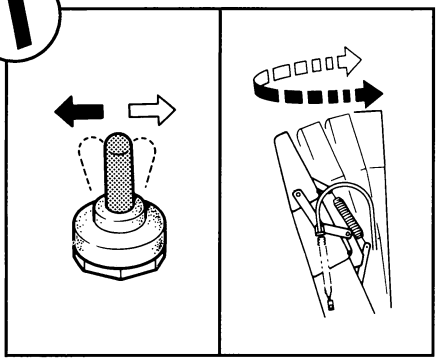
## 6




エンジン回転数が安定後チョークレバーを徐々に“運転”にします。
しばらく暖機運転します。

# 除雪作業をするとき

1

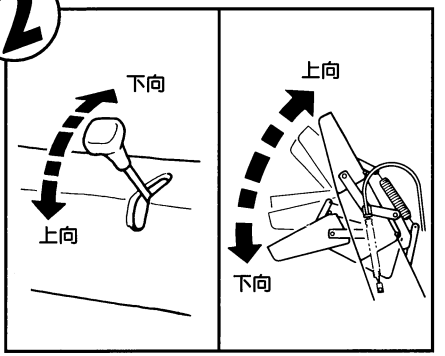


シュータ方向調整スイッチを操作して投雪方向を決めます。

**⚠警 告**

投雪口を人や建物に向けないでください。

2

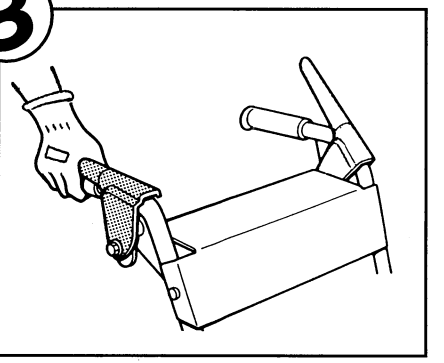



シュータデフレクタ調整レバーを操作して雪を飛ばす距離を調節します。

**⚠警 告**

投雪口を人や建物に向けないでください。

3

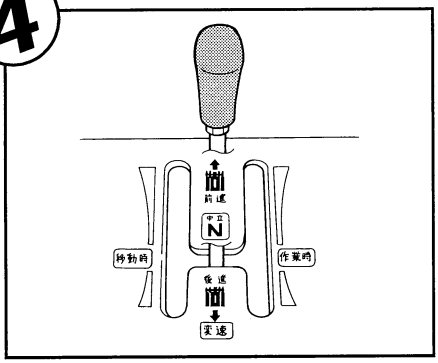


オーガクラッチレバーを握ります。

**⚠警 告**

投雪方向が安全か確認してからレバーを握ってください。

## 4




作業量に応じて変速レバーで作業に適した速度にします。

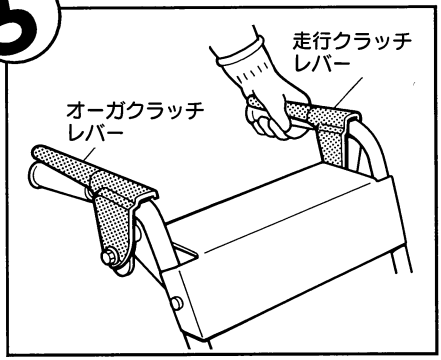
**▲注 意**

変速レバーは初めゆっくりと操作してください。

**要 点**

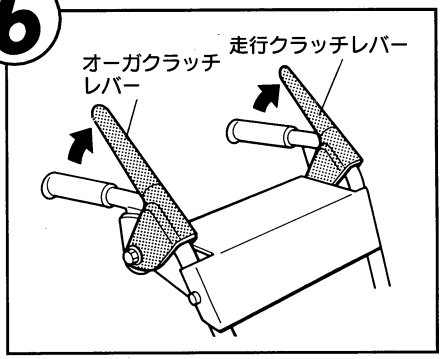
- 除雪作業中は遅めの速度の方がきれいに作業ができます。
- エンジンの回転数が下がる時は、速度が速すぎるので減速してください。

## 5




オーガクラッチレバーを握ったまま走行クラッチレバーを握るとオーガクラッチレバーは固定され、右手をはなしてもそのまま除雪作業ができます。右手で変速レバー、シュータ方向調整スイッチ、シュータデフレクタ調整レバー、スロットルレバー等が操作できます。

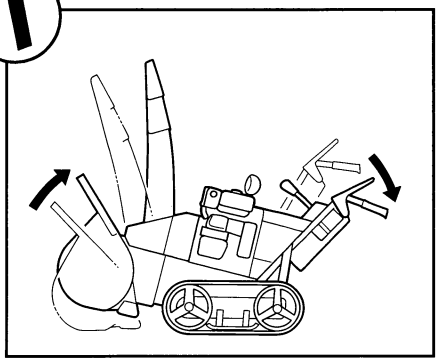
## 6




左右のハンドルから手をはなすとオーガの回転および除雪機の走行が停止します。

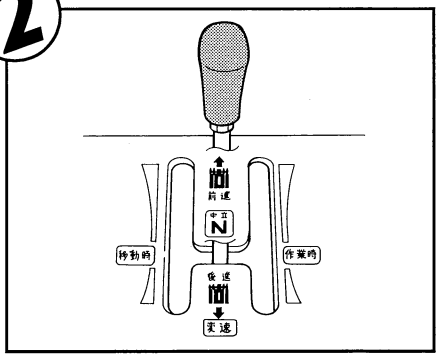
# 移動をするとき

1



オーガ部を1番上げた位置にオーガチルトレバーで調整します。

2

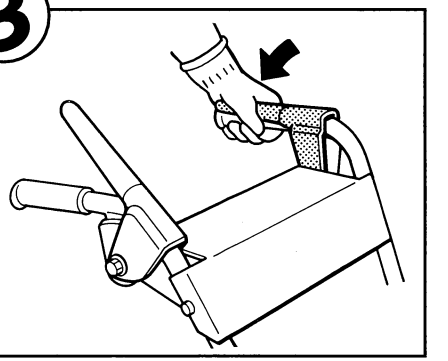



変速レバーを“中立”から最適な速度の位置に入れます。
移動のみの場合は移動側が便利です。

**⚠注 意**

変速レバーはゆっくりと操作してください。

3



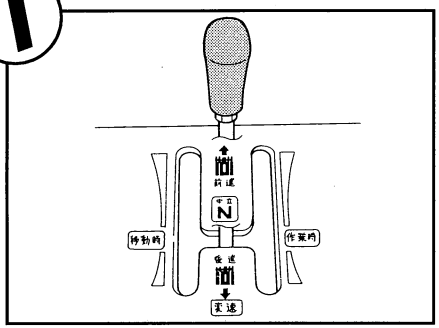
走行クラッチレバーを握ります。

**⚠注 意**

走行クラッチレバーはゆっくりと操作してください。

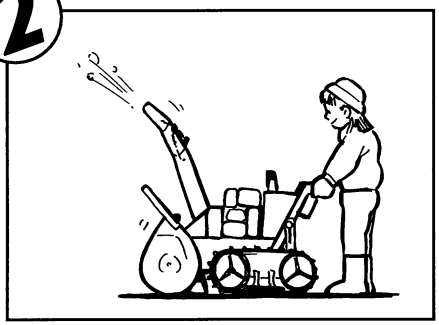
# エンジンの停止

## 1



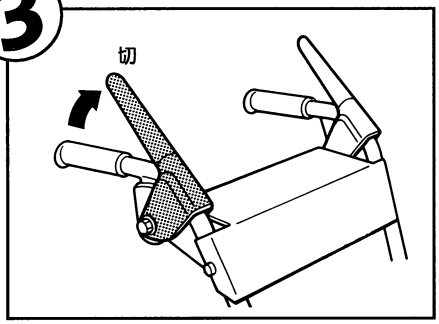

走行クラッチレバーから手をはなします。
変速レバーを“中立”にします。

## 2



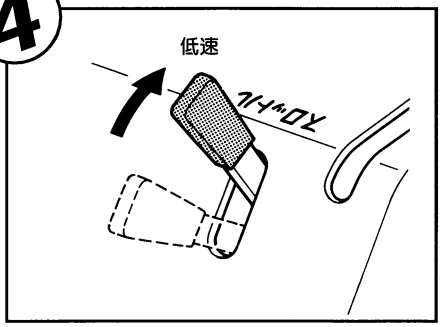
インペラ凍結防止のため作業終了時インペラを空転させ内部の雪を飛ばしてください。

## 3



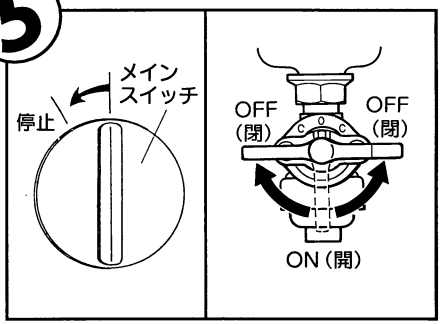

オーガクラッチレバーから手をはなします。

## 4




スロットルレバーを“低速”にします。

## 5




メインスイッチを“停止”にします。
燃料コックを“閉”にします。

**⚠警 告**

- 除雪機は水平な場所に駐車してください。
- やむをえず傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、除雪機の転倒、動き出しのないように、十分注意してください。
- エンジン停止直後はエンジン本体やマフラが熱くなっています。直接触れないでください。

# やさしい点検と整備

点検のおすすめ

## いつまでも安全･快適にご使用いただくために

### 始業点検

お客様の安全と除雪機の故障を未然に防ぐために1日1回お客様自身が次の項目に従って点検を行なってください。
なお点検箇所に異常がある場合は、
販売店で点検・整備をお受けください。

- 作業に十分な燃料の量
- 各オイル量
- 前日の作業で異常が認められた箇所
- ハンドルのゆるみ、がた
- エンジンのかかり具合および異音
- セルスタータの作動具合
- オーガ、走行クラッチの操作具合
- 排気の状態
- シュータデフレクタの作動具合

**⚠警 告**

**エンジン回転中はエンジンとマフラーは高温になっています。除雪機使用直後の点検や調整は行なわないでください。**

### 定期点検

お客様のお申しつけにより、お買い上げの販売店（またはサービス店）が実施します。
お客様の責任で必ず点検を受けてください。

初回点検……お買い上げ日から1か月目
格納点検……6か月ごと
使用前点検……12か月ごと

**⚠注 意**

**定期点検を怠ると不具合の原因となる場合があります。また保証を受けられない場合もありますからご注意ください。**

携帯工具をお使いください。

この除雪機には携帯工具（サービスツール）が同梱されています。
点検・整備の際にご活用ください。

## 点検項目

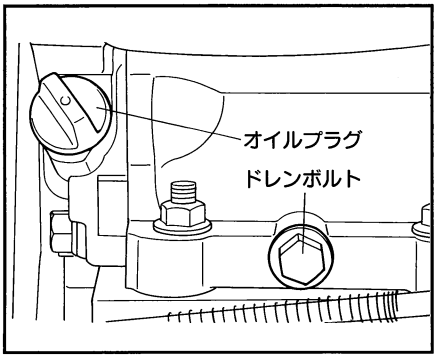
始業点検、定期点検の際に以下の項目を点検します。

| 点検・整備項目 | | | 点検整備時期 | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 始業点検 | 初回（1ヶ月） | 格納（6ヶ月） | 使用前（12ヶ月） | |
| 装かじ取り装置 | ハンドル | ゆるみ、がた | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | スキッド | 取付状態、平行度 | | ○ | ○ | ○ | |
| | チルト機構 | 作動状態 | | ○ | ○ | ○ | |
| 制動装置 | メインスイッチ | 作動具合 | | ○ | ○ | ○ | |
| | オーガブレーキ | 作動状態 | | ○ | ○ | ○ | |
| 除雪装置 | 操作装置 | スロットルレバーの操作具合 | | ○ | ○ | ○ | |
| | | オーガクラッチの操作具合 | | ○ | ○ | ○ | |
| | | 変速レバーの操作具合 | | ○ | ○ | ○ | |
| | | 変速レバーの調整の状態 | | ○ | ○ | ○ | |
| | | 走行クラッチの操作具合 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | シャーボルト | ゆるみ | | ○ | ○ | ○ | |
| | オーガ及びブロア | 取付状態、曲り | | | ○ | ○ | |
| | シュータ | 作動状態 | ○ | | ○ | ○ | |
| | | シュータデフレクタ調整レバーの操作具合 | | | ○ | ○ | |
| 動力伝達装置 | トラック | 張り | | ○ | ○ | ○ | |
| | ウォームホイール | オイルの交換 | | ○ | | ○ | |
| | ミッション | オイル洩れ | | | ○ | ○ | |
| | | オイルの交換 | | ○ | | ○ | |

| 点検・整備項目 | | | 点検整備時期 | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 始業点検 | 初回（1ヶ月） | 格納（6ヶ月） | 使用前（12ヶ月） | |
| 電装 | 点火装置 | スパークプラグの点検 | | ○ | ○ | ○ | |
| 気置 | バッテリ | 液量、比重 | | | ○ | ○ | |
| 原動機 | 本体 | セルスタータの作動具合 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | エンジンのかかり具合及び異音 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | 定格回転数の測定 | | ○ | ○ | ○ | |
| | | 排気の状態 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | 圧縮圧力 | | | | ○ | |
| | | バルブクリアランス | | | | ○ | |
| | | シリンダヘッド部のカーボン除去 | | | | ○ | |
| | 潤滑装置 | オイル漏れ | | | | ○ | |
| | | エンジンオイルの量 | ○ | | | | |
| | | エンジンオイルの交換 | | ○ | | ○ | |
| | 燃料装置 | 燃料漏れ | | | ○ | ○ | |
| | | キャブレタスロットルバルブ<br>チョークバルブの状態 | | | ○ | ○ | |
| | | キャブレタ調整の状態 | | | ○ | ○ | |
| | | 燃料の量 | ○ | | | | |
| | | フューエルホースの交換 | | | | | 4年毎 |
| その他 | マフラ | 取付部のゆるみ | | | ○ | ○ | |
| | | マフラの機能 | | | | ○ | |
| | ボディ | 亀裂損傷及び各部の締付け | | | | ○ | |
| | | 各部の給油脂 | | | ○ | ○ | |
| | 前日の作業で異常が認められた箇所 | | ○ | | | | |

## 点検・交換・調整

### ●エンジンオイルの交換



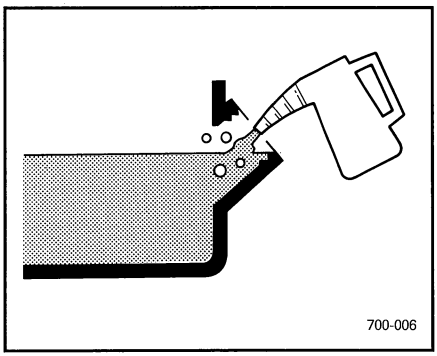

1. エンジンを始動し2～3分暖機運転します。
2. ドレンボルトを外してエンジンオイルを抜きます。

**⚠警告**

エンジン停止直後は、エンジンオイルが熱くなっていますので、すぐに排出しないでください。

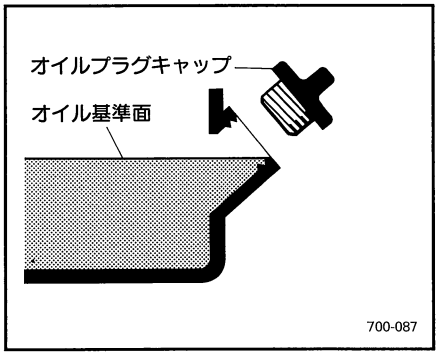
**要　点**

初回20時間目（燃料4回補給時）その後はシーズン初め毎に交換します。




3. ドレンボルトを取り付けます。
4. オイルプラグキャップを取り外して、新しいオイルをオイル基準面もしくは注入口の口元まで給油します。

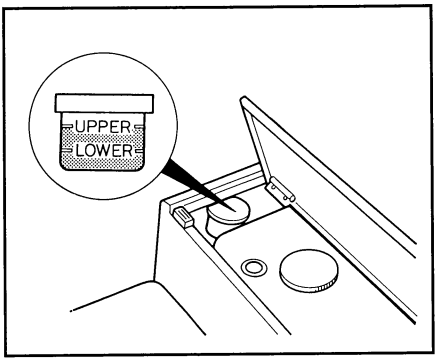
| | |
|---|---|
| オイル量 | 1100mℓ（1100cm³） |
| 使用オイル | ヤマハ4サイクルオイル<br>（API分類SE級エンジンオイル<br>SAE　5W-30） |




**要　点**

- オイルの給油は除雪機本体を水平状態で行ってください。
- こぼれたオイルは必ずふき取ってください。

## ●変速機（H.S.T）オイルの補給




変速機オイルタンクのLOWER（下限）レベル以下になったらオイルをUPPER（上限）レベルまで補給してください。

使用オイル　ディーゼルエンジンオイル
CD級以上　10W-30

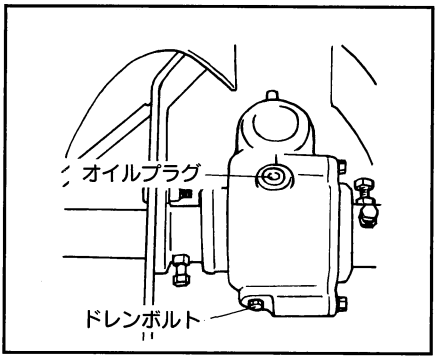
**⚠注　意**

補給時タンクの中にゴミ等の異物が入らないように十分注意してください。

**要　点**

変速機（H.S.T）オイルの補給は、除雪機を水平にして行ないます。

## ●ウォームケースオイルの交換




1. エンジンを始動し2～3分暖機運転します。
2. ドレンボルト・オイルプラグを外してオイルを抜きます。

**⚠警告**

**エンジン停止直後は、オイルが熱くなっていますので、すぐに排出しないでください。**

**要　点**

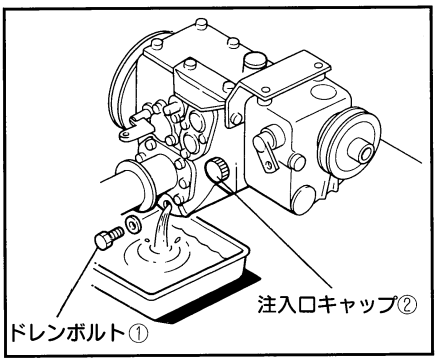
**初回20時間目（燃料4回補給時）その後はシーズン初め毎に交換します。**

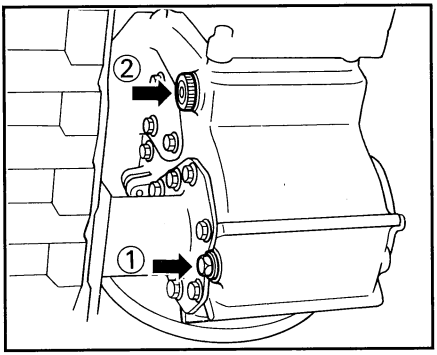
3. ドレンボルトを取付けます。
4. オイルプラグ注入口よりオイルを給油します。

オイル量　　80mℓ（80㎤）
使用オイル　SAE　10W-30

5. ドレンボルトを取り付けます。

## ●ミッションオイルの交換




ミッションオイルの交換は、
　初回ー20時間運転
　以降ー1年毎
に行なってください。

1. エンジンを始動し2～3分暖機運転します。
2. バッテリの⊕⊖端子を外します。
3. 燃料を抜きます。
4. ドレンボルト①を外しオイルを抜きます。
5. ドレンボルト①を取付けます。
6. 本機を立てます。
7. 注入口キャップ②をはずし規定量を注入します。
8. 注入口キャップ②を取付けます。
9. 本機を水平に戻します。

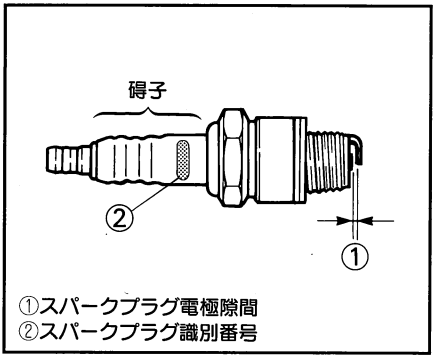
使用オイル

| | |
|---|---|
| 主変速機 | ディーゼルエンジンオイル |
| (H.S.T) | CD級以上 |
| 副変速機 | SAE　10W-30 |

オイル量

| | |
|---|---|
| 主変速機 | 0.5ℓ(500㎤) |
| (H.S.T) | |
| 副変速機 | 2.0ℓ(2000㎤) |

## ●スパークプラグの点検・清掃



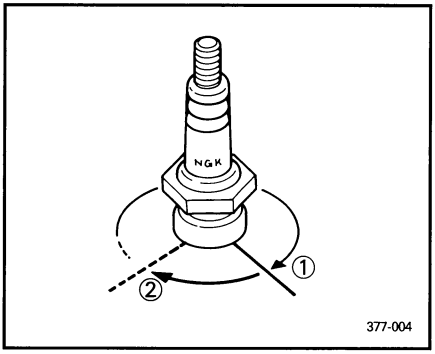

①スパークプラグ電極隙間
②スパークプラグ識別番号

スパークプラグは、点検が簡単なエンジンの重要な構成部品です。
スパークプラグの状態は、エンジン性能に影響を与えます。
スパークプラグは、徐々に劣化しますので、定期的に外して点検を行なう必要があります。
スパークプラグを取り外し電極付近のカーボンを落とします。
スパークプラグの焼け具合を見ます。
通常はキツネ色に焼けますが黒くくすぶっていたり白く焼けていた時はエアクリーナを点検します。
電極隙間を点検します。

| | |
|---|---|
| スパークプラグ | NGK　BPR4ES |
| 電極隙間 | 0.7～0.8mm |

**⚠警 告**

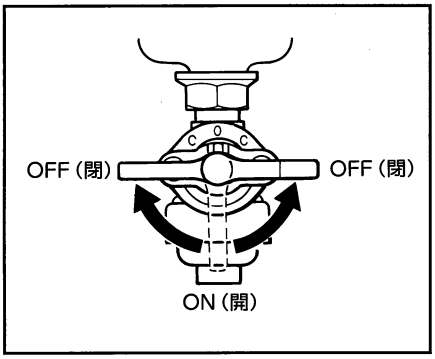
スパークプラグの脱着の際は、碍子を損傷させないように注意してください。
碍子が損傷すると、電気がもれて火災等を誘発する恐れがあります。



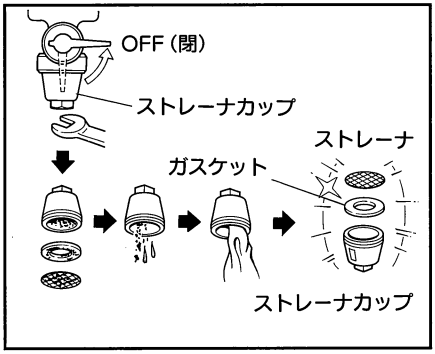

**要　点**

新しいスパークプラグを取り付ける際にトルクレンチが準備できない時は、指でいっぱいに締め込んだ後、プラグレンチを使って1／4～1／2回転更に締め込んでください。
できるだけ早い時期に、トルクレンチを使って正規の値で締めてください。

## ●フューエルストレーナの清掃




1. 燃料コックをOFF (閉) にします。




2. ストレーナカップを取り外します。

**要　点**

**ストレーナカップにゴミがある場合は定期点検時期より早めに清掃してください。**

3. ストレーナカップ、ストレーナをガソリンで洗浄します。

**⚠警 告**

**喫煙中や裸火の近くで燃料や溶剤の使用や近づくことは絶対にしないでください。**

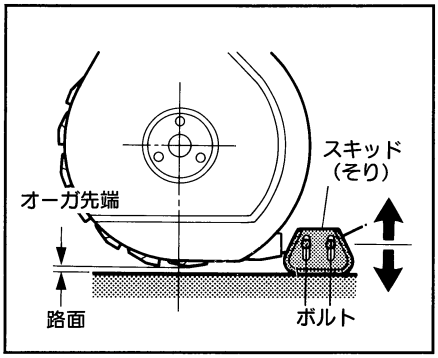
4. ガスケットを点検します。破損している場合は交換します。
5. ストレーナ、ガスケットおよびストレーナカップを再び取り付けます。

**⚠警 告**

**燃料フィルタの再組付は、注意深く行なってください。**
**組み付けが悪いと燃料もれをおこし、火災や爆発の原因になる恐れがあります。**

6. 取付後は燃料漏れがないことを確認します。

## ●スキッド（そり）の調整

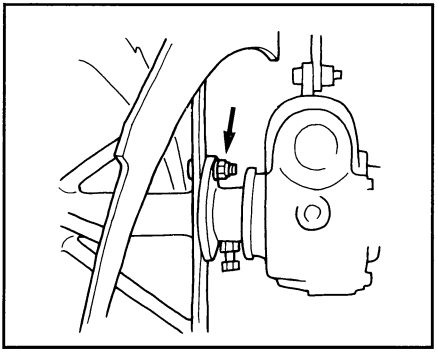



1. エンジンを停止します。
2. スキッドを取り付けているボルトをゆるめます。
3. スキッドを上下に移動させます。
4. スキッドは地面に対して平行に取り付けてください。

**要　点**

調整は必ず平坦な場所で行なってください。

## ●シャーボルトの交換

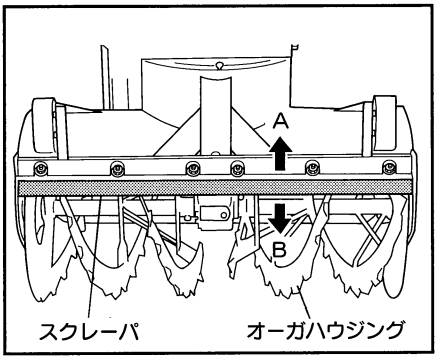


1. エンジンを停止します。
2. オーガケース内の雪、異物等をスノーバー（雪かき棒）で取り除きます。
3. シャーボルトを交換します。

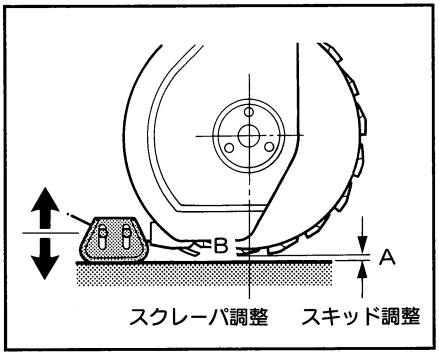
**要　点**

- シャーボルトのナットはしっかり締め付けてください。ナットの締め付け方がゆるいと、シャーボルトは損傷しやすくなります。
- シャーボルトは純正部品をご使用ください。

## ●スクレーパの調整




1. ナット（6本）をゆるめます。
2. スクレーパを動かし調整します。
スクレーパをA方向へ動かすと路面との隙間が少なくなり、B方向へ動かすと隙間が多くなります。




スクレーパとスキッドの関係

路面とのすき間基準　AよりBは大

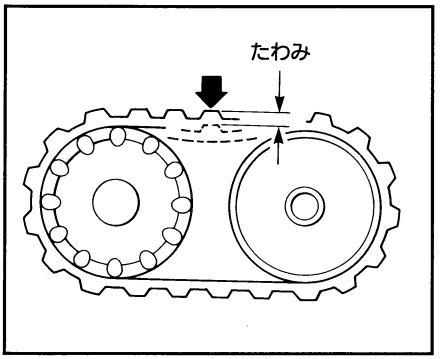
スキッド調整は35ページを参照してください。

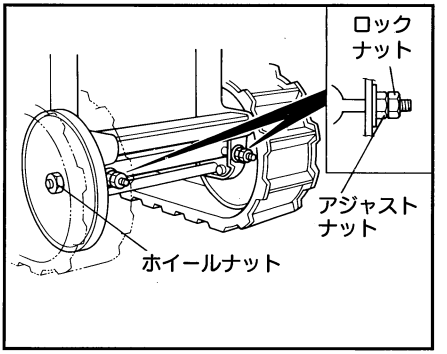
3. ナット、ボルトを締め付けます。

**要　点**

**ナット締付けのときスクレーパの長穴はオーガハウジングの長穴と位置を合せてから行なってください。**

## ●トラック（クローラ）の張りの点検・調整




トラック（クローラ）の張りが適正でないとスリップなどの原因になり、思うように除雪作業ができません。

### 点検

1. トラック（クローラ）の中心部を手で10kg程度の力で押してたわみを点検します。
   たわみ規定量　20～30mm/10kg

**要　点**

**トラック（クローラ）の摩耗、傷の点検も同時に行なってください。**

### 調整

規定値以外の場合は調整します。

1. ホイールナットをゆるめます。
2. ロックナットをゆるめ、アジャストナットで張りを調整します。

| | |
|---|---|
| アジャストナット<br>をゆるめる | 張りは<br>ゆるくなる |
| アジャストナット<br>を締め込む | 張りは<br>きつくなる |

**要　点**

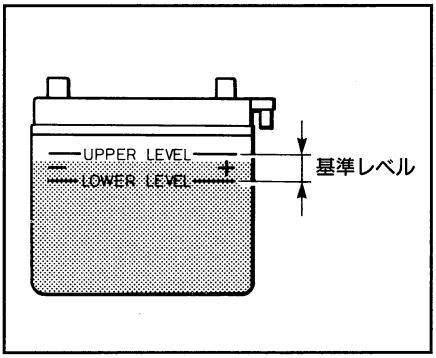
**アジャストナットは左右均等に締め付けてください。**

3. 調整後ホイールナットを締付けます。

**要　点**

**点検・調整は必ず平坦地で行なってください。**

## ●バッテリ液量の点検




1. バッテリの液面が基準レベル内にあるか確認します。
2. 液面が基準レベルより下がっている場合は蒸留水を補給します。
3. キャップの排気孔につまりがないか確認します。

比重　1.28

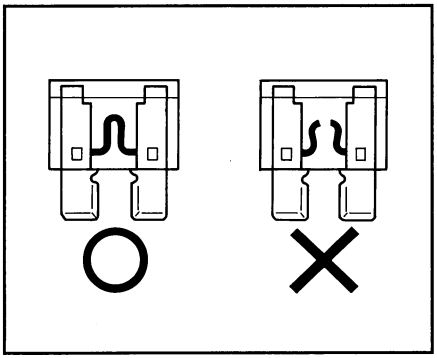
**⚠警告**

- バッテリの取り扱いにご注意ください。
- バッテリは引火性ガスを発生しますので、取り扱いを誤ると爆発や大けがをすることがあります。（特に保守・点検・充電・ブースターケーブル使用時には、危険のないように取り扱ってください。）
  - ○火気厳禁……ショートやスパーク、たばこ等の火気を近づけないでください。＜爆発＞
  - ○通風のよい所で……閉めきった場所での使用や充電は危険です。＜爆発＞
  - ○バッテリ液は希硫酸……皮膚・目・衣服につくと危険です。＜火傷・失明等＞
- 規定以外のバッテリは使用しないでください。
- 応急手当
  - ■皮膚・衣服についた時は多量の水で洗い流してください。
  - ■目に入った時はただちに多量の水で十分洗い医師の治療を受けてください。

**要　点**

定期的に比重を測定しバッテリの状態を確認してください。

## ●ヒューズの交換



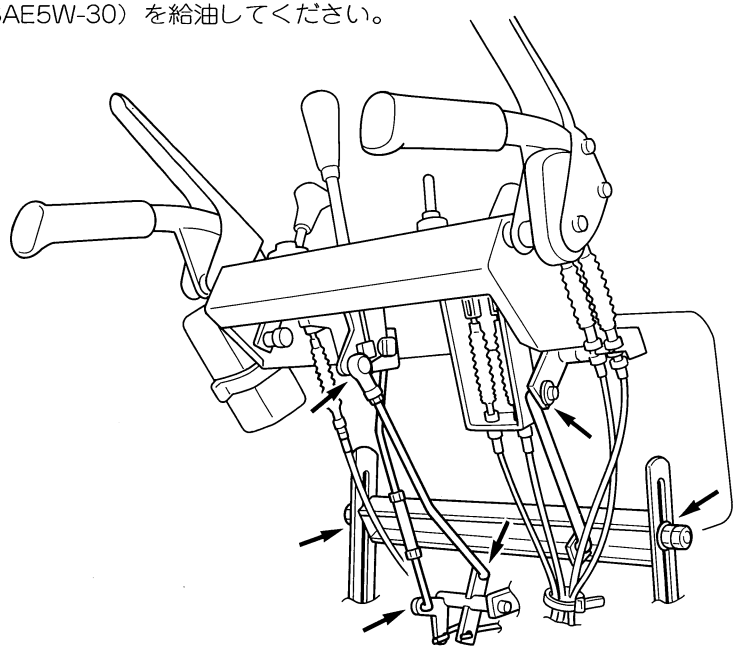
切れたときは新品のヒューズと交換します。なお交換してもすぐに切れる場合は原因を調べ、修理してから新品と交換してください。

**⚠注 意**

- 容量の違うヒューズやヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱、焼損の原因になるので絶対に使用しないでください。
- 洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けることは避けてください。

## ●各部の給油

1か月または10時間ごとに各操作部の軸部（矢印の箇所）にグリスまたはオイル（SAE5W-30）を給油してください。



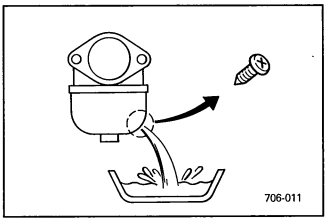
# 長期格納

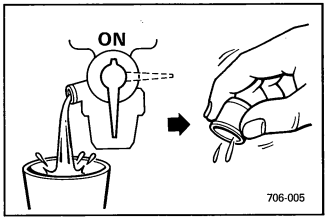
## 次のシーズンに向けてそなえましょう

長期間にわたってご使用されない時は次のことを行なって除雪機を保管しましょう。

**燃 料**

- 燃料タンクから燃料を完全に抜いてください。
- キャブレタ内やパイプ内にある燃料はエンジンをかけて使い切るか完全に抜いてください。




**⚠注 意**

長期間、キャブレタに燃料（ガソリン）が溜ると、燃料（ガソリン）が劣化し、エンジンの始動不可、不良の原因となりますのでかならず上記の作業をしてください。

**スパークプラグ**

- スパークプラグをはずし、オイル（SAE　5W-30）を3～5ccシリンダ内に入れて、オイルをエンジン内に回してください。その後スパークプラグを取り付けてください。

**サ ビ**

- すべての摺動部分の破損・キズ・サビ等を点検してください。
- オーガ・オーガハウジングのサビやすい金属部分にはオイルを塗布してサビ止めを行なってください。

**バッテリ**

- 端子から配線をはずしてください。
- 6か月に1度補充電してください。
- 充電については販売店にご相談ください。

**グリス**

- 各給油箇所はすべてオイルまたはグリスを給油してください。

**カバー**

- きれいな乾燥した場所にカバーをかけて保管してください。

# 仕様諸元

| | 販売名称 | | YT1080E | YT1290E |
|---|---|---|---|---|
| 寸法・重量 | 全長 | | 1640mm | 1640mm |
| | 全幅 | | 830mm | 930mm |
| | 全高 | | 1340mm | 1340mm |
| | 重量 | | 200kg | 228kg |
| 除雪性能 | 除雪能力 | | 60トン/時間 | 70トン/時間 |
| | 除雪幅 | | 800mm | 900mm |
| | 除雪高さ | | 570mm | 570mm |
| | 投雪距離 | | 18m | 18m |
| 除雪機構 | 除雪機構 | | 2ステージオーガブロア | 2ステージオーガブロア |
| | シュータ回転角度 | | 230° | 230° |
| 走行速度 | 走行装置 | | エンドレスゴムクローラ | エンドレスゴムクローラ |
| | 変速装置 | | H.S.T＋副変速 | H.S.T＋副変速 |
| | 走行速度 | 前進 | 0～1.35km/h | 0～1.35km/h |
| | | | 0～3.49km/h | 0～3.49km/h |
| | | 後進 | 0～0.75km/h | 0～0.75km/h |
| | | | 0～1.8km/h | 0～1.8km/h |
| 原動機 | エンジン種類 | | 空冷4サイクル傾斜型OHV単気筒ガソリン | 空冷4サイクル傾斜型OHV単気筒ガソリン |
| | 総排気量 | | 301mℓ（301cm³） | 357mℓ（357cm³） |
| | 最大出力 | | 7.4kW/10PS/4000r/min | 8.8kW/12PS/4000r/min |
| | 使用燃料 | | 自動車用無鉛ガソリン | 自動車用無鉛ガソリン |
| | 燃料タンク容量 | | 6.7ℓ | 6.7ℓ |
| | 潤滑方式 | | 強制飛沫式 | 強制飛沫式 |
| | エンジンオイル | | ヤマハ4サイクルエンジンオイル 1100mℓ（1100cm³）（SAE5W-30） | ヤマハ4サイクルエンジンオイル 1100mℓ（1100cm³）（SAE5W-30） |
| | 変速機オイル | | 主：ディーゼルエンジンオイル CD級以上<br>副：SAE　10W－30 | 主：ディーゼルエンジンオイル CD級以上<br>副：SAE　10W－30 |
| | 始動方式 | | エレクトリック（セル式） | エレクトリック（セル式） |
| サービスデータ | スパークプラグ | | BPR4ES（NGK） | BPR4ES（NGK） |
| | スパークプラグギャップ | | 0.7～0.8mm | 0.7～0.8mm |
| | ウォームケースオイル | | 80mℓ（80cm³）（10W-30） | 80mℓ（80cm³）（10W-30） |
| | バッテリ形式 | | GM18Z-3A | 32A-19R |
| | バッテリ容量 | | 12V-20Ah | 12V-24Ah |
| | トラック（クローラ）の張り具合 | | 10kgの力で押して 20～30mm | 10kgの力で押して 20～30mm |

この仕様諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

# お客さまご相談窓口

お買い上げいただきました製品やサービスに関してのご意見は下記の＜ご相談窓口＞またはご購入いただいたヤマハ販売店へお気軽にお申し付けください。

**ヤマハ発動機㈱特機事業部**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 業務室サービスグループ | ☎0538(37)4410 | 〒438 | 静岡県磐田市新貝2500 |
| 国内営業部 | | | |
| 北海道営業所 | ☎011(612)1063 | 〒063 | 札幌市西区24軒1条7-3-13 |
| 東日本営業所東北販売課 | ☎022(284)6121 | 〒983 | 仙台市宮城野区日の出町3-8-36 |
| 東日本営業所 | ☎048(663)8411 | 〒331 | 大宮市大成町3-311-1 |
| 中部営業所 | ☎052(917)1554 | 〒462 | 名古屋市北区辻本通り2丁目34 |
| 西日本営業所 | ☎06(535)4481 | 〒550 | 大阪市西区北堀江3-6-13 |
| 西日本営業所中国販売課 | ☎082(581)1173 | 〒734 | 広島市南区東雲3-16-8 |
| 西日本営業所四国販売課 | ☎0878(35)2777 | 〒761 | 高松市上福岡町字宮東984-1北村ビル3F |
| 九州営業所 | ☎092(411)3607 | 〒812 | 福岡市博多区上牟田1-11-1 |

| 名称 | 電話番号 | 郵便番号 | 所在地 |
|---|---|---|---|
| ■北海道 | | | |
| 北海道ヤマハ㈱札幌営業所 | ☎011(641)2711 | 〒063 | 北海道札幌市西区24軒1条7-3-13 |
| 〃 ㈱釧路営業所 | ☎0154(23)3345 | 〒085 | 〃 釧路市南浜町2-30 |
| 〃 ㈱函館営業所 | ☎0138(46)1466 | 〒041 | 〃 函館市三原3-38-34 |
| ㈱西条モーター商会 | ☎01652(3)3164 | 〒095 | 〃 士別市東1条8丁目 |
| ■青森県 | | | |
| ヤマハ東京㈱青森営業所 | ☎0177(39)8081 | 〒030-01 | 青森県青森市大字八ッ役字上林78-55 |
| ■岩手県 | | | |
| ヤマハ東京㈱盛岡営業所 | ☎0196(45)2901 | 〒020-01 | 岩手県盛岡市中屋敷町9-29 |
| ■宮城県 | | | |
| ヤマハ東京㈱仙台営業所 | ☎022(236)9325 | 〒983 | 宮城県仙台市宮城野区日の出町3-8-35 |
| ■福島県 | | | |
| ヤマハ東京㈱郡山営業所 | ☎0249(33)6771 | 〒963 | 福島県郡山市桑野2-33-1 |
| ㈲松坂屋 | ☎0242(28)1525 | 〒965 | 〃 会津若松市東栄町3-40 |
| ■埼玉県 | | | |
| ヤマハ東京㈱大宮営業所 | ☎048(666)7011 | 〒330 | 埼玉県大宮市大成町3-311-1 |
| 〃 SC春日部 | ☎048(755)1821 | 〒344 | 〃 春日部市南栄町3 |
| ■新潟県 | | | |
| ㈱タカハシ（柏崎） | ☎0257(24)2211 | 〒945 | 新潟県柏崎市西本町2-2-24 |
| 〃 （新潟） | ☎025(229)2531 | 〒951 | 〃 新潟上大川前通り4-117 |
| 〃 （長岡） | ☎0258(46)6111 | 〒940-21 | 〃 長岡市喜多町141-3 |
| 〃 （上越） | ☎0255(43)2492 | 〒942 | 〃 上越市春日新田3-10-6 |

| 名称 | 電話番号 | 郵便番号 | 所在地 |
|---|---|---|---|
| ■神奈川県 | | | |
| ヤマハ東京㈱東神奈川営業所 | ☎0462(29)8680 | 〒243 | 神奈川県厚木市戸田2446-3 |
| 〃 西神奈川営業所 | ☎0462(29)8680 | 〒243 | 〃 |
| 〃 SC神奈川 | ☎0462(29)8770 | 〒243 | 〃 |
| ■山梨県 | | | |
| ヤマハ東京㈱甲府営業所 | ☎0552(23)4151 | 〒400 | 山梨県甲府市住吉2-3-23 |
| ■長野県 | | | |
| ヤマハ東京㈱松本営業所 | ☎0263(26)8640 | 〒390 | 長野県松本市並柳1-3-3 |
| ■石川県 | | | |
| ヤマハ中部㈱北陸営業所 | ☎0762(48)6565 | 〒921 | 石川県石川郡野々市町二日市町540-1 |
| ■岐阜県 | | | |
| ヤマハ中部㈱岐阜営業所 | ☎058(247)1521 | 〒501-61 | 岐阜県羽島郡岐南町平成6丁目109 |
| 〃 SC愛岐 | ☎058(247)1522 | 〒501-61 | 〃 羽島郡岐南町平成6丁目109 |
| ■滋賀県 | | | |
| ヤマハ関西㈱滋賀営業所 | ☎0775(53)0235 | 〒525 | 滋賀県栗太郡栗東町上釣162-1 |
| ■京都府 | | | |
| ヤマハ関西㈱京都営業所 | ☎075(312)0714 | 〒615 | 京都府京都市右京区西院久保田町20 |
| ■鳥取県 | | | |
| ヤマハ関西㈱米子営業所 | ☎0859(27)5951 | 〒689-35 | 鳥取県米子市二本木1088-1 |
| ■岡山県 | | | |
| ヤマハ関西㈱岡山営業所 | ☎086(225)2191 | 〒700 | 岡山県岡山市青江299-1 |
| ■広島県 | | | |
| ヤマハ関西㈱広島営業所 | ☎082(581)1171 | 〒734 | 広島県広島市南区東雲3-16-8 |

SCはサービスセンターの略称です。

1997年3月現在

# 索引（さくいん）


記号
- ⚠危険シンボルマーク……表紙裏
- ⚠危険ラベル ……P5,6
- ⚠警告シンボルマーク……表紙裏
- ⚠警告ラベル ……P5
- ⚠注意シンボルマーク……表紙裏
- ⚠注意ラベル ……P5,6

あ行
- 安全にお使いいただくために ……P1
- 移動をするとき ……P23
- ウォームケースオイルの交換 ……P31
- 運転中には ……P2
- 運転前には ……P1
- エアクリーナ ……P7
- エレクトリックスタータ ……P7
- エンジンオイルの交換 ……P29
- エンジンオイルの点検 ……P9
- エンジン回転調整レバー ……P7
- エンジンスイッチ ……P7
- エンジンの始動 ……P19
- エンジンの停止 ……P24
- オイルプラグキャップ ……P7
- オーガ ……P7
- オーガクラッチレバー ……P7,14
- オーガチルトレバー ……P7,15
- オーガハウジング高さ調整レバー ·P7
- お客さまご相談窓口 ……P43
- おねがい ……表紙裏

か行
- 格納点検 ……P26
- 各部の給油 ……P39
- 各部の取り扱い ……P11
- 各部の名称 ……P7
- カバー ……P7
- キャブレタ ……P7
- クラッチレバー ……P14
- クローラ ……P7
- クローラの張りの点検・調整 ……P37
- 携帯工具 ……P7,26
- 交換 ……P29

さ行
- サイドクラッチレバー ……P7,16
- 作業灯 ……P7,17
- 始業点検 ……P26
- 始動する前に点検しましょう ……P8
- シャーボルト ……P7,13
- シャーボルトの交換 ……P35
- シュータ方向調整スイッチ ……P7,15
- シュータデフレクタ ……P7
- シュータデフレクタ調整レバー P7,15
- 重要ラベル ……P5
- 使用前点検 ……P26
- 仕様諸元 ……P41
- 初回点検 ……P26
- 除雪クラッチレバー ……P7
- 除雪作業をするとき ……P21
- スキッド（そり） ……P7,16
- スキッド（そり）の調整 ……P35
- スクレーパ ……P7,16
- スクレーパの調整 ……P36
- スノーバー（雪かき棒） ……P7,17
- スパークプラグの点検・清掃 ……P33
- スパークプラグ ……P7
- スロットルレバー ……P7,12
- セルスタータ ……P7
- 走行クラッチレバー ……P7,14
- そり ……P7,16

た行
- 正しい運転方法 ……P19
- 長期格納 ……P40
- チョークレバー ……P7,12
- 調整 ……P29
- 定期点検 ……P26
- 点検 ……P29
- 点検項目 ……P27
- 点検のおすすめ ……P26
- トラック ……P7
- トラックの張りの点検・調整 ……P37
- ドレンボルト ……P7

な行
燃料コック ……P7,11
燃料残量計 ……P7
燃料タンク ……P7
燃料タンクキャップ ……P7
燃料（ガソリン）の点検 ……P8
は行
バッテリ ……P7
バッテリ箱 ……P7
バッテリ液量の点検 ……P38
ハンドル ……P7
ヒューズ ……P12
ヒューズの交換 ……P39
フューエルストレーナの清掃 ……P34
プラグキャップ ……P7
変速機（H.S.T）オイルの点検 …P10
変速機（H.S.T）オイルの補給 …P30
変速レバー ……P7,13
保管のときは ……P4
ま行
マフラー ……P7
ミッションオイルの交換 ……P32
メインスイッチ ……P7,11
や行
やさしい点検と整備 ……P26
雪かき棒 ……P7,17
要点シンボルマーク ……表紙裏

## 正しい操作で安全除雪

- 雪詰まりの際や点検・整備時は、必ずエンジンを停止させてから。
- 回転部・投雪部には手・足・顔などを絶対に近づけない。
- 投雪方向は人・窓・車など、常にまわりの状況を確かめて。
- 早朝や深夜の除雪は、ご近所の迷惑を考えて。
- 燃料の取扱いには十分なご注意を。

その他、ご使用になる前には必ず取扱説明書をよく読んで、安全で正しい操作を心がけましょう。

YAMAHA
ヤマハ発動機株式会社
〒438静岡県磐田市新貝2500
特機事業部
97.04－×1

再生紙を使用しています